

緑の宝



2014
新年号
No.59



静岡市駿府城公園

目次

新年のご挨拶	P 2
都市緑化樹木育成技術講座II	
樹木の根系の生育の現状と課題並びに管理の方向(飯塚康雄)	P 3
樹木の根系の機能と診断、発根促進法(堀 大才)	P 6
みどりのおたより	
「里山フェスタ in 小堀谷」(静岡県環境ふれあい課)	P10
浜名湖花博 2014 の計画概要(静岡県浜名湖花博 10 周年記念事業推進室)	P10
第6回静岡県景観賞	P11
造園業でインターンシップ	P12
緑の相談に助言	P12
公共緑化施設を巡回	P12
造園緑化の技能講習	P13
会員の受賞	P13
技士会だより	
塚本こなみさん語る	P14
会員の受賞	P14
身近な樹木と暮らしの話	P15

新年のご挨拶



公益社団法人
静岡県緑化協会会長
片桐 利男

片桐 利男

明けましておめでとうございます。
すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

振り返りますと昨年は稀にみる猛暑が続きました。また大型台風が多発して大きな被害をもたらした。特に伊豆大島では甚大な被害を蒙りました。一日も早い復旧を心より願うものであります。何かと暗い話題が多い中で、2020年のオリンピックの東京開催決定や富士山の世界遺産登



静岡県知事
川勝 平太

明けましておめでとうございます。
健康やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃から、本県の緑あふれる豊かな暮らし環境の創造に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年六月、私たちの長年の悲願がかない、富士山が世界遺産に登録されました。登録までの険しい道程を乗り越えることができましたのも、貴協会を始め多くの皆様の御尽力の賜物です。この世界の宝を永く後世に継承していくため、引き続き富士山と周辺環境の保護・保全に御支

録など日本中が喜びに湧いた明るいニュースもあり、心湧き立つものがあります。

本年は、我々と関係の深い浜名湖花博10周年記念事業並びに第31回全国都市緑化しずおかフェアとして「浜名湖花博2014」花と緑の祭典として「浜名湖の二会場」三月二十一日から六月十五日までの八十七日間にわたり開催されます。花と緑の祭典に緑化に携わる私も協会も公益法人として出来る限りの協力をして参りたいと思います。

浜名湖の花と緑が訪れた人々の心に安らぎと潤いをもたらして、緑花に対する関心を一層高めるとともに我々業界の発展にも繋がっていくことを願うものであります。

援・御協力を願ひ申し上げます。

今年三月には、浜名湖花博の開催から10周年となることを記念し、浜名湖ガーデンパークとはまつフラワーパークを会場として、「浜名湖花博2014」花と緑の祭典が開幕します。

これまで、貴協会や関係団体の皆様と連携した実行委員会において進めてきました準備作業も、いよいよ最後の仕上げの段階に入りました。春には、浜名湖の湖畔で、花と緑のオーケストラが奏でる見事なハーモニーを御覧になれる。是非、多くの皆様に御来場いただきたいと思ひます。

貴協会では、自然環境の保全や都市緑化の拡充に向け、地域の緑化活動や公共の場の緑化管理などに対し、技術支援をされています。都市やその周辺の大切な緑を適切に育成・管理し、次世代に残していくため、技術講習会の開催等

社会の景気上昇の気運は、我々業界にはその恩恵は乏しく公共工事の減少等現状は依然として厳しい中にありますが、このような時こそ、我々は、一層の技術の研鑽に励むとともに新しい分野、工法の開発に努め、緑化の専門的技術に有する者として環境緑化の保全、拡充に努めていくことは責務であると思ひます。緑の担い手として、今後とも一層の都市緑化推進活動に励み、地域に信頼される環境保全に努めて参る所存であります。

結びに皆様には、ご協力ご理解をお願い申し上げますとともに益々のご健勝を心よりお祈りし新年のご挨拶といたします。

に努められていることに、深く敬意を表します。

県では、身近な緑である芝生を活用した魅力ある「ふじのくに」の形成を目指し、昨年度から「芝生文化創造プロジェクト」に取り組んでいます。この一環として、昨年四月から九月に、静岡県芝草研究所が公益財団法人静岡県グリーンバンクと共催で、芝生管理に関する専門技術を学ぶための「芝草管理講座」を実施したところ、貴協会からも多数の参加をいただいたと伺っています。

高度な専門知識と技術をお持ちの会員の皆様におかれましては、今後とも、花々が咲き誇る緑豊かな理想郷づくりに御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と会員の皆様の御健康と御活躍を心から祈念し、新年の御挨拶といたします。

都市緑化樹木育成技術講座Ⅱ



街の緑の健全な育成のための生長を踏まえた適正な管理技術を向上するため、「都市緑化樹木育成技術講座」を昨年度に引き続き、本年度は2回にわたって開催しました。

本年度は、普段は目にしないものの樹木の生育に大きく関わっている根系に着目したテーマで講座を設け、2回の講座には、延べ83人が参加して座学、野外での意義深い内容の知識、技術を身につけることができました。

その講義概要をご紹介します。

まず、根系の役割ですが、皆さんはよくお解りと思いますが、水や養分を吸収して地上部に送り幹を太らせて、樹冠をつくるというのが第一です。養分を蓄積するという役割もあります。

根系の現状はどうなっているかと言うと、街路樹の場合は、植栽帯とか植樹帯など規制された植栽基盤の中で根が生育するしかなく、植樹帯であれば横方向にしか伸びず、掘ってみると車道側はしっかり固められていて根の伸びが少ないのです。車道側でも保水性の良い土があるのと伸びていきますが、基本的には伸びは少ないのです。

■根系の役割と現状



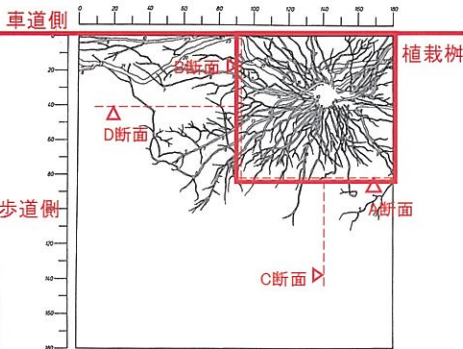
第1回 7月30日(火)
樹木の根系の生育の現状と
課題並びに管理の方向
国土交通省国土技術政策総合研究所
道路研究部緑化生態研究室
主任研究官 飯塚康雄

■はじめに

はじめに、私が所属している研究所を紹介します。研究所のホームページの中の「緑化生態研究室」を開いていただきますと、様々な情報を閲覧することも資料入手もできますので、是非皆さんもアクセスしてください。

私は「研究内容」でいうと「樹木の管理と更新」をテーマに研究しています。このほか、「公園・緑地計画」、「景観の保全・形成」、「生態系の保全」などをテーマに10人ほどで研究に取り組んでいます。

それでは資料に基づきお話しします。今日お話しするのは、根系の役割や管理の方法になりますが、まずは現状を把握して評価する必要があります。これを行わないと適切な管理ができません。その後で対応策として今何が考えられるかについてお話しします。



街路樹(イチヨウ)の根の生育状況



竜巻によるクスノキの倒伏

こちらはユリノキがベッコウタケにやられてしまつて、地上部は問題ないのですが、根がわからないまま腐ってしまったので



ベッコウタケにより根が腐朽したユリノキの倒伏

次に最近問題となっている根上りです。植えてある植樹例が小さく構造物が近くにある場合、根によつて舗装が持ち上がり、割れたりします。このような事例はユニバーサルデザインを進める上でも問題で、日本のみならず世界的にも問題となっており、2000年にはアメリカで国際シンポジウムが開かれていました。その中の報告資料では、ニューヨークでは「つまづき」による怪我に対して補償の解決に4千万ドルがかつたということがあります。実際の改修費は

1/4だったと。日本でも今後こんなことも懸念されます。

根上りとは、縁石があつてもどこかにスペース、細い隙間があれば、そこから根は入り、その後には肥大生長します。要因を整理すると、樹木の側からすれば木が大きくなれば根も当然大きくなります。構造物に隙間があり、その土壌の水分状態が良ければ根が入ります。隙間に入る時の根は面白くて、根はこぶ状となつたり異常な屈曲をするなど工夫して伸びていきます。構造物側では、舗装の下に砕石層に保水性がありまして、根が入つたりします。あと植栽基盤が小さいほど、構造物が近付くことになり、被害が大きくなる傾向があります。

このほか、根の生育現状として、傷害が挙げられます。根上りがした根が踏まれたり、工事によつて切断され、あるいは地下部の太い根が移植時に切られ、そこから腐朽が入って根株、幹へと拡がり、さらに拡大して倒れたりするということが起きています。

これは歩道の下の埋設管に侵入した例で、細い根が密集して入り通水被害を起こしてしまつた事例です。これらは、特別なことではなく、見えないだ

けでどこにもあり得る事例だと思います。



埋設管に侵入した根(写真提供:深谷沙氏)



ガードリングルート

降つたとき根元の水環境が良いためだと思えます。こうした根

は、樹幹とは完全に結合しないため、根が太くなる一方で幹の根元が細くなることから、強風が吹いた場合には倒れてしまうことがあります。

このようなことを踏まえて課題を整理すると、まず、樹木の根の状況を診断する技術が必要であり、更にその診断の結果をどう評価するか、その方法、判断基準の確立が必要となります。その結果を受けて、根系の伸長不良や腐朽については、生育不良及び倒伏に関する対策、根系の根上りについては、周辺構造物被害に関する対策や根系侵入による地下埋設管等被害に関する対策、ガードリングルートに関する対策、根系の周辺工事等からの保護などを講じるということが可能となります。

■根の特性を知る

次に、本日のテーマである根についてですが、根を見る機会は少ないので、根はどんな形か、樹根特性がありますので、そうしたことを覚えておいていただくことと根系の診断やその先の対策、管理に有効だと思えます。きちんと根を知っておかないと根の管理はできません。地上部は日ごろ目にする機会が多いの限りが、根は自ら見ようとしない限りは絶対に見られません。

ご紹介した根は、圃場の根で大変きれいに伸長している根です。実際には、地形や土質などによつても変化し、街路樹では植栽基盤の形状に大きく影響されます。

街路樹は、深く広く伸長することができずに、自然に比べて不成形となり、不成形に伸長した根系は、樹体を支える支持力が劣ると考えられます。

次のページの写真は、ソメイシノですが、街路樹の場合は側に影響された方向にしか伸びず、しかも地下部が固いため表面に限られています。

堤防の場合はほとんどの根が法尻の方しか伸びていません。圃場で伸びる根と比べ、同じソメイシノで大きく異なります。

また、ポット苗の場合、実生苗と比べ底の根(垂下根)が切られていますので、違う形になります。

これはフクギ、オオバカテツの根系ですが、公園と圃場で異なる植栽基盤での伸長状況です。公園の根系は、植栽時に垂下根が切断され、さらに有効土層も薄くても困りという最悪の状況であることから、圃場の根と比較すると未発達な根系となつていることが解ります。



堤防



街路樹



工場

■根の診断

次に根の診断ですが、どのようにに診断していけば良いかといえ、根の腐朽についてはレジストグラフで斜め下に向けて行います。伸長分布は電磁波を使つた地中レーダーと鉄の杭を入れて電気抵抗を測定し根の分布を推定するものがありますが、これは試みられている段階のもので、



海岸のクロマツ

こうした診断を行いどう評価するか。根腐れ腐朽の場合は幹と同じような判断基準となり、腐朽割合が50%以上となると幹折れの危険がありますということになります。この基準となるデータは海外のもので国内のデータを集める必要があると考えていますが、倒れたら直ちに処理す

これは仙台の海岸に植えられていたクロマツですが、ポット苗と実生苗で比べると、実生苗ではクロマツの典型的な水平根と直根が見られますが、ポット苗ではつきりとした根系は見られません。

これは仙台の海岸に植えられていたクロマツですが、ポット苗と実生苗で比べると、実生苗ではクロマツの典型的な水平根と直根が見られますが、ポット苗ではつきりとした根系は見られません。このように、調査を行うのは難しいのが現状です。ただ少ない事例ですが国内で調査したデータでは、50%以下でも折れている例があつて、これは樹の要因として、樹高に比べ、幹が細いなどの要因もあり、解明しなければならぬ課題となつていきます。根の伸びと倒伏の関係に関するデータとしては、海外のデータですが根系盤半径が幹の半径のどの程度の比率の場合に倒れたかというデータがあります。これを見ると、例えば40cmの幹の半径に対して根系盤が3m以上であれば倒れていないということ、これを参考にして、ドイツでは2.5mまで根が伸びられるようにする、イギリスでは老木と壮齢木に分けての段階的な基準があります。日本では、私の研究所でも高木のデータをとりつていますが、外国とおおむね一緒という結果になつていきます。ただ、これは植栽基盤が制限された街路樹のデータではないので、街路樹に適用するにはさらに検証が必要であり、残念ながら公園にもかく街路樹では使えません。

一方、実際に倒れた木を調べると、7割程度が根返りです。従つて腐朽も危ないのですが、倒伏に対して対応するとすれば根返りに対処していく必要性がより高いこととなります。2012年のつくば市の竜巻で倒れた時も75%が根返りでした。2011年の宮城県の津波による海岸林の倒伏では、根返りより抜根、傾斜させて32%でした。

■診断結果の評価と対応

診断結果の評価ですが、根上りや埋設管等への侵入は見れば解りますが、被害が小さいうちに見つけ対応することが重要です。対応策としては、当然危険となれば伐採することとなります。根上りに対しては植樹基盤の拡張などの「回避」、植栽基盤の改良などの「根の誘導」、構造物を強化するなどの「耐性」があります。根を切る際には、根腐れなどの問題がありま

すので注意しておかねばなりません。また切った後その根が土を被せると同じところに根が出てきますので、根を遮断する対策も必要です。同時に、下に根が生育できる空間をつくることも大切です。この街路樹は車道側に出てしまつていますが、これは緑石を外すしかありません。根株が削が入りますが、これが良いかどうか、将来のことも考えてきちん



車道にはみ出した街路樹



ストラクチャーソイル

私どもでは5年位前から樹木生長量のデータを測定しています。根上り対策の一つ「回避」の中で、将来を考えた樹木の変更という方法もあります。例ではソメイヨシノの並木からあまり大きくならないコシノヒガンザクラに植え替えたものがあります。あと「誘導」の一つとして、車道の下や歩道の下にも根が伸びる空間をつくる方法もあります。

また土壌改良としてストラクチャーソイルとて、踏圧等による変形を受けずに空隙を確保するため、砕石等の骨組みに養分等を含む細粒質の骨材を隙間に詰め、構造を確保しながら、根の伸展性を満足するような土壌構造にする方法があり、こうした対策の一つの方法です。車道の下に枠を設ける方法もあり、最初のほか、根が入る道を最初から決めておけば競合が避けられるということで、ルートパスという方法も行われています。

ガイドリングルートについては、現時点で明確な対処方法は確立されておらず、切除することでの幹の圧迫ストレスを解消できる一方で、根の損失や切除による傷から腐朽菌の侵入を受ける可能性があり、今後の検討が必要ですね。

いずれにしても問題の解決方法や管理には、様々な技術とそれに付随する課題がありますので、根の現状把握、診断と評価の技術を高め、樹木の管理に力を尽くしていただくことを願っています。

※午後は、野外で電磁波により地中の根の伸長分布を調査する「ツリーレーダー」の実演と飯塚氏が開発した「Y線樹木腐朽診断機」の実演による指導をいただきます。



Y線樹木腐朽診断機実演



ツリーレーダー実演

診断機」の実演による指導をいただきます。

なお、「ツリーレーダー」については、応用地質(株)の大橋武一郎氏、石澤伸彰氏、播磨さおり氏、松村美穂氏並びにエヌエス環境(株)の岩島一美氏のご協力をいただいで今回の機会を得ることが出来ました。

各氏に深く感謝致します。



樹木は根から様々な肥料成分を水と共に吸収します。しかし、森林樹木が生育する土壌環境では、土壌水中には肥料成分はほとんど含まれません。土壌水は真水に近い状態です。ですから、十分な養分を吸収するために、大量の水を吸収して葉から蒸散させ、その時に養分は葉に残ります。このようにして必要な肥料成分を集めているのです。樹木は光合成のために大量の水を必要とし、さらに養分を集めるた

■光合成と水と根

今日は、樹木の根の機能と発根促進についてお話をします。

樹木が光合成をするためには、適切な温度が必要です。日本の樹木はおおむね5℃以上で光合成を開始し、最も盛んに光合成をするのは25℃ほどです。葉の温度がそれ以上になると光合成は急激に減少し、40℃ほどになるとほとんどしなくなります。

第2回 8月23日(金)
樹木の根の機能と
診断、発根促進法
NPO法人樹木生態研究会代表理事
東京農業大学非常勤講師 堀 大才

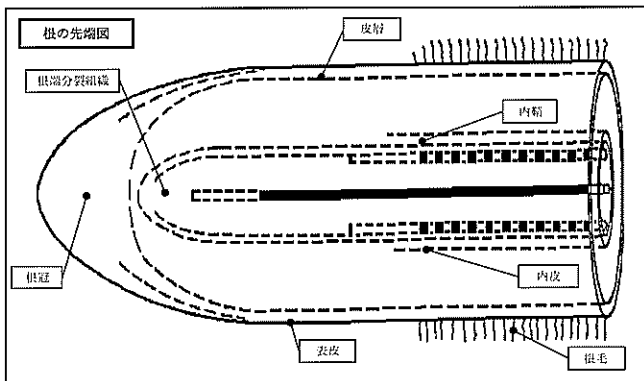


めにも大量の水を消費しています。従って、樹木の根は猛烈に水を吸っています。

一般的には、枝張りとも根張りは等しいと思われています。しかし、実際には、根系切断や障害物などの制限を受けていない状態で樹木であれば、枝張りを超えて伸びているのが普通です。何故かと言えば、樹冠すなわち枝葉の下では、少々の雨は枝葉に付着してそのまま蒸発して地面に落ちてこないで、降水量が裸地よりも少ない状況になっており、また根元近くの根の密度が高い所では、根が水を猛烈に吸収するために土壌が乾いているからです。ですから、根系は水を求めて外へ外へと拡大していきます。従って、樹種や土壌条件によって程度は変わりますが、根は樹冠よりも広く伸びています。

■根の生理・生態

根は先端の数cmの細根部分で水を吸収しています。根が分岐ほど先端の数が増えれば増えるほど水の吸収能力は高くなることから、根は乾燥状態になると細かく分岐し、過湿状態になると分岐の数は少なくなりますが、根の先端部分で水分吸収できるのは、期間が限定されています。組織が古くなって根の



肥大成長と共に表皮が破壊されると表面はコルク化し、コルク化したところは水を吸えなくなり、すなわち、先端は水を吸収するために常に伸びています。真冬でも休眠状態で樹体からは水が徐々に抜けて行きますので、真冬でも水を吸収する必要があります。

図は根の模式図です。一番の先端部分に根冠があります。根が伸びていくと石や土に当たりますが、ぶつかると傷付きますので、それを防ぐためにクッションの働きをしています。根冠は絶えず擦り切れていきますので、そのすぐ内側にある根端分裂組織から絶えず補充されています。根端分裂組織はさらに内側に新しい組織をつくり、伸びていきます。分裂したばかりの細胞はまだ組織化されていませんが、段々と組織化し、外側から表皮、皮層、内皮、内髓、中心柱を形成します。中心柱の中心に篩管、形成層、木部が形成されます。根毛は表皮細胞から突起状に出たもので表皮細胞の一部です。枝や幹とは異なり、根には髄がありません。根が幹との区別は髄があるかないかで、断面の年輪中心をル

べで見れば判別できます。

根毛のある表皮細胞の状態は長くは続かず、中心柱の形成層が一周するように環状につながって年輪成長を開始すると、肥大成長によって外側の表皮は破壊され、皮層組織がコルク化して行きます。さらに太くなると皮層組織も破壊され、篩管細胞がコルク形成層をつくり、根の先端は1年で10cmから1m以上も伸びることがありますが、コルク化した部分では水を吸収できないので、水分吸収機能があるのは、常に先端の数cmです。表面が茶色になっている根はもう水を吸いません。

細根部分の表皮細胞の細胞壁は水が自由に通れます。根に入った水は表皮細胞の細胞壁を通り抜け、次いで皮層組織の細胞間隙と細胞壁を通り、内皮に到達します。内皮には細胞間の隙がなく、細胞壁にはスベリンの層(これをカスバリー線と言います)があるため、水が木部(水が葉まで到達する時の通り道)にまで到達するには内皮細胞の中を通らなければなりません。この意味は、内皮細胞の細胞膜がエネルギーを使って吸収する水の量や溶けている成分を調節すること、水分量、栄養塩類の量を調節し、病原菌等

の有害物質は阻止する、という働きをしています。また、乾燥時には木部から土壌への水の逆流を阻止する働きもしています。この働きをするためには、大きなエネルギーが必要で、大きな根は盛んに酸素呼吸をしています。根は土壌空気中の酸素を直接利用するのはなく、水の中の溶解酸素を吸っています。水に酸素が十分に含まれているためには、水が上から下に移動することが必要です。深い所の根が呼吸できるかどうかは、大気中の酸素を十分に溶け込ませた雨水が上から下に動くかどうかで決まります。

樹木の根は、水平根と重力に応じて伸びる垂下根をつくり、大部分は水平根で、酸素の含まれた水を求めて土壌の浅い層を伸びて行きます。土壌が固く停滞水が高いと、停滞水は溶解酸素が高いため、根は停滞水より上でしか生活できません。土壌の表面は酸素が十分ありますので、土壌が固ければ悪いほど、通気透水性が悪ければ悪いほど、根は土壌表面を這うようになります。水が上から下へ動くようにすれば、根は深くまで伸びていきます。梅雨や秋霖のような長雨の後に盛夏期や木枯らしの季節のような乾燥期が

くると、土壌条件が悪いところほど乾燥害を受けやすくなります。何故ならば、通気透水性が不良であると、長雨の時には土壌空隙は水で満たされていますが、酸素はほとんどない状態です。このような時は土壌表面の根だけが活性化しています。そこに急激な乾燥が来ると、活性化している細根は表皮にしかないので、たちまちのうちに乾燥枯死してしまいます。これが乾燥害です。もし通気透水性が良くて深い層も酸素が供給できている状態では深くまで発達している根は、乾燥害を受けません。従って、根を如何に深いところに誘導するかが重要で、難しいことではありません。深くまで穴を開け、水が動くようにすればよいのです。しかし、既存の樹木がある場合、土を入れ替えたりに耕転したりすることは、根を切ってしまうので好ましくありません。

垂下根は、力学的に体を支えるという重要な役割とともに、乾燥した時に水を吸う役割もします。水が十分ある時、土壌の深い部分は酸欠状態ですので、休眠状態になっています。乾燥期が来ると多くの細根を発生させて水を吸収します。垂下根は停滞水中では根腐れを起こしま

すが、水が上下変動する範囲内であれば根腐れはあまり起きません。何故かという、垂下根の皮層には通気組織となる細胞間隙が発達しているからです。幹の表面には沢山の皮目がありますが、これは通気孔です。幹も盛んに呼吸をしています。皮目から取り入れられた酸素は皮層の中の水に溶け込みます。酸素が溶け込められた水は皮層通気組織によって垂下根に送られるのです。

■根の育成

街路樹は強風等でしばしば倒れますが、なぜ倒れるかという根が張ってなく、また腐っているからです。重要な点は太い根が最初から傷付いていることです。根は植栽時に切られています。外観上は順調に生育しているようにみえても根は徐々に腐朽し、力学的な支持力は低下していきます。力学的な支持力の不足には植え株の狭さも大きく影響しています。さらに、植栽時の土壌改良資材に品質不良なものが含まれていることがあります。未熟な堆肥は腐朽菌や病原菌の温床となつて根に傷があれば容易に菌が侵入してしまいます。

土が固いと根は浅い状態になっています。ですから根素を全体に深くすることで土壌改良の基本です。肥料成分はさほど必要ありません。森林では、樹木の成長に必要な窒素成分の60%は落葉により還元されています。しかし、公園ではこの落葉を取ってしまったため還元されず大きくなれないのです。窒素以外の成分も多くが落葉により土壌に還元されているのですが、公園緑地等では還元が断たれています。できれば落葉を取り除かないほうがいいのです。東京の明治神宮と隣の代々木公園の樹木は、ほぼ同じころ植えられたものですが、樹高は明治神宮の方がはるかに高くなっています。これには立木密度も関係しています。代々木公園では落葉は綺麗に清掃され、明治神宮では取り除きません。その差が大きいと思われ

ています。この水は肥料成分に富んでいます。上昇する際に色々な物質を溶かしながら上がってくるからです。街路樹の場合、下から水が上がつてこない状態となつてしまいます。コンクリートから溶出する炭酸カルシウム等のアルカリ成分に比べてアルカリ化している傾向があります。アルカリ土壌の場合、鉄など金属は水に溶けにくいので、必要な金属イオンが不足することがあります。

■根の切断と発根促進

どうしても根を切らなければならないことがあります。舗装を持ち上げる場合や土木工事の場合です。しかし、これによって根を著しく傷つけ、樹木を衰退させるとともに、根株腐朽も進行します。特に、重機で掘って乱暴に切断するのは最も悪いことです。

切断予定時期の1カ月以上前に環状剥皮をすることにより、太根から細根を沢山分岐させれば、同じ切断をするにしても結果は全然違ってくる。移植しなければならぬ時も事前の環状剥皮を推奨します。環状剥皮の対象となる根の太さは、一般的には直径5cm以上となつていますが、私は2cm、3cmも含めて可能な限り多くの



環状剥皮

根で行うことを勧めます。



環状剥皮 剥皮幅15cm

切断部分より根元側で、15cm程の幅で皮を剥き、埋め戻します。剥皮した部分より先の部分は隣部による栄養供給が断たれますので徐々に衰退し、いずれは枯れていきますが、活力のある太い根は枯れるまでには時間がかかります。半年から1年、私の経験では長いもので2年ほど生きていました。この間に先端部分の細根は減っていきますが、新しのか養分、水分を供給します。その結果、環状剥皮せずに切断した場合と環状剥皮をしてから切った場合とでは、樹冠の葉量が全く違います。環状剥皮した方は葉を維持できるため、剪定をしなくても済みますが、環状剥皮をしない場合は剪定が必要となります。無剪定で葉量が多いということは光合成能力

が高いということになり発根力も高くなります。

根の先にある根端分裂組織では、多様な植物ホルモンを生産していますが、特にサイトカイニンを沢山生産しています。サイトカイニンは、自分の根を伸長させる、葉を若返らせる、芽の活力を高める、潜伏芽を活性化させて胴吹き枝を出させるなどの働きがあります。根を切ってしまう場合と環状剥皮をする場合とでは、サイトカイニンの働きが全く違っています。

以上のように、環状剥皮は移植のみならず工事に伴う根の切断などに大変有効です。ただし、この方法は根元近くの発根を促進できますが、根量全体は減少するので、樹勢回復には利用できません。

また、発根促進には堆肥が重要です。堆肥は発根効果が非常に高いです。堆肥の中の肥料分も発根促進効果があります。また、堆肥中の微生物による効果も重要です。微生物の中には植物ホルモンをつくるものがあります。微生物が生産する植物ホルモンのうち、オーキシンは内鞘等における側根形成を促す働きを持っています。環状剥皮の段階では剪定すること重要で、剪定すると

胴吹き枝がものすごい勢いで伸びていきますが、剪定で失われた葉の量は全く違います。失われた量の方が多く、また芽を出したためエネルギーは幹に蓄積しているエネルギーを大量に消費するため、エネルギーの収支は大きくマイナスとなります。そしてこの間、根には糖の供給がなくなり衰退することになるからです。

今日は根の生理・生態から育成に關してお話しましたが、根に關する正しい知識と技術を、持つて樹木に接していただくことで、街の樹木は健全に生育するようになると思います。



※午後は、根上りの状況を野外で観察し、途中雨が降ってきたため、室内に戻り詳しくご指導いただきました。

みどりのおたより

「里山フェスタ in 小堀谷」

静岡県環境ふれあい課

平成25年11月16日（土）に、県環境ふれあい課と浜松市内の企業5社で組織する西部森づくりCSR協働推進協議会（森づくりCSRトラスト）の共催で、秋の森づくり県民大作戦シンポジウム「里山フェスタ in 小堀谷」を浜松市天竜区青谷にて開催しました。

今回「しずおか未来の森サポーター」企業数が100社を超えたことを記念し、川勝知事、中谷県議会議長、伊藤浜松市副市長の参加のもと、開会式ではテープカットならぬ丸太カットや十月桜の記念植樹を行いました。その後、森づくりCSRトラストの会員家族や地元住民

162人（内子ども23人）が秋空のもと施肥ダムづくり、広葉樹植栽など、里山再生活動に汗を流しました。

「しずおか未来の森サポーター制度」は企業のCSRとして行う森づくり活動に対し、県がフィールドの紹介や活動内容の指導・助言、活動状況のPRなどのサポートや認定証の交付を行う制度で、平成25年12月末現在



主催者挨拶（川勝知事）



広葉樹を植栽する参加者

で企業数は103社になりました。

この森づくりCSRトラストの活動は、企業・地元住民・行政が協働で里山再生を実施するモデルであり、今後地域におけるより多くの連携を促すための核となることを期待しています。

おわりに、森の力再生事業実施箇所の管理にも利用できる国庫事業「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」が平成25年度から始まっています。

平成26年度の募集につきましても、わかり次第皆様にお伝えしますので、地域の里山の保全にご活用をお願いします。

浜名湖花博 2014 の計画概要

静岡県浜名湖花博10周年記念事業推進室

新年、あけましておめでとうございます。

いよいよ、浜名湖花博2014の開幕まで3ヶ月を切り、会場の整備も本格化してきております。今回は、屋外の主な展示や出展の計画概要について説明いたします。

- 1 浜名湖ガーデンパークにおける主な展示・出展計画
- (1) 花銀河



園内最大の花壇「花銀河」

政令指定都市などが共同で制作する三千五百mを超える

園内最大の花壇です。銀河をイメージした大空間の中に、出展する各自治体を星に見立てた立体花壇や平面花壇を全体に配置し、時間を越えた地域や人の絆の重要性を表現します。現在、県外12、県内14の自治体が出展予定です。

- (2) 花みどりアート回廊
- 園内にはこの10年間に育まれた樹木や花の資産がありますが、これらとアート作品がコラボレーションした空間を創造し、花や緑の持つ新たな可能性を表現しています。現在、地元の静岡文化芸術大学に監修を依頼し、地元を中心としたアート作家と花壇の設計者が連携し進めています。

- (3) 未来の暮らし創造・しずおかガーデン
- 「しずおからしいもてなしの庭園」を一般から募集し、浜松市の幅広い層さんとガーデンデザイナー・小倉珠子さんとの共同出展により、本県の魅力的な風景を留景した新たなモダンガーデンを提案します。



特別展示「Togenkyo」

(4)特別展示「Togenkyo」
特別展示として、昨年5月のチェルシーフラワーショーにおいて2年連続でゴールドメダルを受賞した、ランドスケープアーティストの石原和幸さんによる庭園を展示します。中国の詩人によって詠まれた桃源郷の物語をヒントに、緑に囲まれた暮らしこそが平和で真の豊かさであることを表現します。



しずおかガーデンのイメージ

(5) 出展・コンテストの概要

伝統的な日本の技・匠などを表現する「魅せる庭」、ペランダガーデンなど身近な暮らしの参考となる「暮らしの中の庭」、既存の庭園空間を自由に装飾し、出展者がPRや各種サービスを行う「にぎわいの庭」の出展を募集しました。現在、50を超える団体が出展を予定しております。

(6) その他の屋外展示

浜名湖花博で生まれた「花の美術館」は、指定管理者による庭として引き続き展示をします。その他、会場内には概ね一万二千㎡の花壇を再整備し、会期中百万株の花々で会場を飾る予定となっております。

2 はままつフラワーパーク会場における展示・出展計画

メインエントランスの正面に、三百㎡のバラをメインとしたパーゴラのある西洋風の華やかな「ウエルカムガーデン」を新たに制作する他、藤棚の前の芝生地にチューリップや宿根草等を植栽した五百㎡の「スマイルガーデン」を制作します。

多くの方々に花や緑への関心を喚起するため、広く県内外から作品を募集したコンテ

ナガーデンやハンギングバスケット、ミニガーデンのコンテストを実施し、継続的な実施のきっかけづくりとします。



スマイルガーデンのイメージ

3 おわりに

以上、屋外の展示や出展の概要を述べましたが、準備期間が短いこともあり、関係者の皆様には御心配をお掛けしており、この場を借りてお詫び申し上げます。

しかし、10年前の花博を記憶している県民は多く、また、当時、事業に携わった造園関係者をはじめ、出展者やボランティアとして活躍した方々が、この間、様々な形で花や緑の産業や公園の管理に携わっています。こうした方々とともに、今回のイベントを盛り上げ、来場者目標80万人の達成だけでなく、花や緑の持つ力を再認識していただけるよう努めたいと思います。

第6回静岡県景観賞

公益社団法人静岡県造園緑化協会は景観の保全、整備に関する取組を強化するため、景観整備機構の指定を受け、緑豊かな美しい景観づくりに向けた活動に取り組みんでいます。

当協会も参加する「美しいしずおか景観推進協議会」では、静岡県景観賞の平成25年度受賞地区4地区を、103件の応募の中から優れた都市景観を創出している地区等として選定し、11月29日に表彰を行いました。

最優秀賞

◆民間施設部門
世界遺産富士山を望む

風景美術館
「日本平ホテル」(静岡市)

優秀賞

◆公共施設部門
在来種タンボウの里山景観

「遊木の森」(静岡市)
◆田園・農山漁村部門
遠州森町 水田3倍活用

の農業風景(森町)
◆景観づくり活動部門
遠州横須賀のまちづくり

(掛川市)

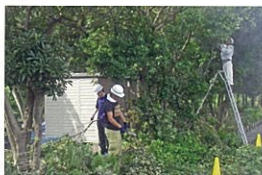


世界遺産富士山を望む風景美術館「日本平ホテル」



表彰式

造園業でインターンシップ



剪定作業

8月6日から5日間、静岡県農業学部環境森林科学科の3年生2名をインターンシップの一環として受け入れました。実習の場を提供し指導に当たったのは、園小林土木緑化です。

八巻貴裕（やまぎ たかひろ）

私は園小林土木緑化様でインターンシップを受けさせていただきました。造園業、土木業について学びました。今回は現在工事している現場、管理している場所の見学や作業の手伝いを実際にする

ことで仕事内容や工程を知ることができました。駿府城公園、県立美術館、足久保堤、草薙運動場、150号線沿い等に芝の石積みの修繕、草刈り、芝の管理、剪定、伐採による現場管理を見学し実際に体験させていただきました。ほかに過去の現場の図面や完成書面を見せていただいていたので仕事の詳細を教えることができました。仕事内容は施工管理で主に仕事の計画から現場の監督、造園業ではさらに完成後の樹木伐採などの管理などとおこなうもので大学では知ることができないことを多く知ることができました。

地球温暖化が進むこの時代、将来わたしたちは造園会社に入り都会に緑を増やす仕事をしたいと思っています。インターンシップを受けてさらに造園学について学び今後に生かしていきたいと思っています。

岡泰平（おかたいへい）

こんにちは。静岡県農業学部環境森林科学科3年の岡泰平です。今回静岡県造園緑化協会様のご紹介で園小林土木緑化様の方でインターンシップにお伺いさせ

ていただきました。私はサークルでビオトープの計画をしており、何か参考ににならないかと思うところ、また大学で測量学の授業を受けており、造園や土木など実際に使われている現場を見てみたいと思い、インターンシップを申し込みました。



堰堤工事

インターンシップ中は施設管理、街路樹整備、砂防堤工事、石積み工事、公園整備、道路工事など幅広いことを見学、体験させていただきました。5日間インターンシップに行つてよかったことは、御社またはその他の会社の体系がさっくりと分かったこと、監督業の内容、幅の広さが分かったこと、授業で習ったことがどのように使われているのか、どの程度正確にするのか、分かったことです。新しい知識

を得て、今まで持っていた知識も深まり非常に刺激を受けました。今回学んだことを今後サークルや就職活動、就職してから生かしていけたらと思います。本当にありがとうございました。

緑の相談に助言



浜松市

人の手で植えた樹木は、季節に応じた管理も欠かせません。街の潤いとなる元気な樹木を育てるために、相談所を設けて助言させていただきます。春は12箇所、秋には7箇所のイベントなどの場に「緑の相談所」を設け、様々な疑問、相談にお答えさせていただきました。イベントで見かけた、気軽にイベンチに寄りこ相談ください。

公共緑化施設を巡回

公益財団法人静岡県グリーンバンクとともに、県内36箇所の公共緑化施設の管理について8月29日から延べ9日間わたって巡回指導を行いました。

現地では、緑化施設の生育と管理の状況を調査し、必要な管理の内容や方法などの助言に重点をおいて実施しました。



熱海市

今年度は潮害や暑さが続くなど前年度同様、樹木にとっては厳しい環境だったにもかかわらず、前々回の巡回時に樹勢の衰退が見受けられた施設が見事に回復しているところも見受けられ、管理者の樹木への思い、並々ならぬご努力がうかがえました。

適切な管理による緑の健全な生育を期待しています。



島田市

しかし、樹木、緑地に目をつけておらず、肥料不足、水不足や病害虫対策の不徹底な施設も見受けられ、今後の適正管理の内容、方法を具体的に指導、要請させていただきます。



浜松市

造園緑化の技術講習

55歳以上の高齢者の就業を支援するため、造園緑化に関する技術講習を行いました。

この講習は、公益社団法人静岡県シルバー人材センター連合会から受託して実施されました。

講習は、富士会場（9月25日）10月7日、藤枝会場（10月22日）10月31日、両南会場（11月7日）11月15日、焼津会場（11月19日）11月28日の4会場、それぞれ7日間におたつて開催しました。

各会場では、緑化・造園総説、安全作業、造園材料、病害虫防除、竹垣、根回し・移植・植栽、植物管理の講座を開き、技術委員会や静岡県造園施工管理技士



静岡市

会などに所属するベテラン技術者が講師を務めました。



造園総説



植物管理

63人の受講者の皆さんには、座学、実技に真剣に取り組んでいただきました。
今後の就業に役立つとともに街の緑を育んでいただくことを願っています。

会員の受賞

◆ 国土交通大臣顕彰

（県浮月園（磐田市）
太田雅夫氏



竹垣

10月17日、メルパルクホール（東京都）において優秀施工者国土交通大臣顕彰式が行われ、太田雅夫氏は優れた技術、施工努力が高く評価されて「建設マスター」として顕彰されました。

◆ 静岡県優秀技能者功労表彰
（知事功労表彰）

（一）窓園（富士市）
鈴木泉氏



◆ 静岡県認定職業訓練功労者
表彰（知事褒賞）

（株）植源（伊東市）
立木泰氏



優れた技能、職業訓練における業績が高く評価され、鈴木泉氏、立木泰氏が受賞されました。表彰式は、26日、静岡市の東部勤労者福祉センター「清水テルサ」で開かれました。

技士会だより

塚本こなみさん語る

静岡県造園施工管理技士会では、6月24日(月)、通常総会閉会後、静岡県教育会館において公益財団法人浜松市花みどり振興財団理事長、あしかがフラワーパーク園長で樹木医、環境緑化コンサルタントの塚本こなみ氏を招き、「木の命を知る」をテーマにご講演をいただきました。



冒頭、塚本こなみ氏は、ご主人の造園業を手伝うなかである大きな公園工事を完成させた時、さあ、これからが公園整備のスタート、緑を育てていくことが大切だと考えたそうです。そのことで公園の管理者とお話しをしたもの、うまく咬み合わず、それでも奮起して、緑を守り、育てる会社を立ち上げ

たということでした。しかも、ご主人の仕事に配慮されて営業は一切しないということでもスタートしたということです。作るだけでは終わらない、育てることだけに想いを寄せる。当たり前のようですが、とても新鮮に感じます。独立された塚本氏は、その後掛川の樹齢千年のモッコクの移植などを手掛けられ、その都度木の素晴らしさ、エネルギーを感じながら多くのことを教えられたといいます。

平成3年に樹木医制度が創設されると、翌年には受験され見事合格されて女性第1号の樹木医となりました。合格したものの、塚本氏は、改めて木のことにしても知らないのだということを強く認識させられたそうです。それで、他の樹木医が手掛けた全国の木や巨木を見て歩き勉強されたそうです。

平成8年には、周りからは無理だから仕事を受けないでと言われていた「あしかがフラワーパーク」の幹周3m超え、枝の広がりはおよそ300畳という大木を含めた大フジ4本の移植を手掛けられました。最大の課題は、フジの外皮は大変柔ら

かく傷つき易いとともに幹には腐りも入っていて、如何に傷つけないで移し替えるかであったといえます。この解決には社員からヒントを得て石膏で幹を覆い、鉄骨棒を組んで吊り上げる手法により無事に移植が終わり、今では幹周4m超え、広がり600畳にも生長しているそうです。既成概念に捉われず木と向き合っていることに感動です。この移植の縁もあって平成11年には「あしかがフラワーパーク」園長に就任、園を「世界一のフジガーデン」として名声を高め、経営を飛躍的に改善されたのは周知のとおりです。



そうした園長の職務の傍ら、移植、治療の要請に応じて全国

を走り回っていたといいます。名古屋では、伐採の計画が美しいヤマザクラを守って欲しいという一市民の声に心動かれました。準備、根回しの時間とれず夏の移植という難問だったのですが、木と真正面から対峙しながら、剪定をせず葉を半分に切つて、光合成を維持しつつ早期発根を促すという手法により、見事にヤマザクラは活着したそうです。

また、道路建設に伴う住居移転の際の庭のゴウモウツの移植、誰も引き受け手がなかったこの移植は、3年かけて準備し、当日は新築中の家の上を跨いで移動するという大掛かりな移植となったそうです。しかし、1年半後には松くい虫により枯れてしまい、塚本氏はできることがあったのにとても悔やんでおられました。

塚本氏は、人々の木への想いに応え、木と向き合い、木から教えられ、木の命を知らされながら、懸命に緑を守り、育ててこられました。これが続けられるのは、木を扱うことが好きであること、好奇心と学びの心と決ってあきらめないことだと言葉で講演会を閉められました。

真摯に木に對峙し、研究心と

好奇心と熱い気持ちが進められ示唆に富んだお話ありがとうございました。



会員の受賞

◆(二社)

静岡県建設産業団体連合会会長表彰

㈱愛樹園(東伊豆町)

中野 孝三氏



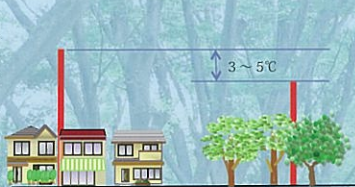
5月31日に開催された(二社)静岡県建設産業団体連合会総会で、業務功績が評価されて表彰されました。

身近な樹木と暮らしの話

都市では潤いを与えてくれている樹木が減少しています。私たちの暮らしと深く関わっている樹木のことを、今一度思い起こしてください。

○暑さをやわらげます

静岡県の依頼を受けて静岡市内の公園や街路樹十八地域の周辺の真夏の気温調査を行ったところ、住宅地などではいずれも静岡気象台の気温より2～6度高い値を示していました。これは空調システム、自動車などの人工排熱の増加や舗装など地表面の人工化などによって、気温が郊外に比べ高くなるヒートアイランド現象です。こうした住宅地に比べ、公園など集団的緑地では3～5度、街路樹の周辺では1～4度低くなっていました。（緑の気温暖衡機能検証等調査）



○温室効果ガスである二酸化炭素などを吸収します

樹木は二酸化炭素や大気汚染物質である窒素酸化物、二酸化硫黄を吸収、固定するとともに、粉塵を吸着するなど大気を浄化します。

れた調査ではケヤキやヒノキが大きな効果を示していました。国土交通省によると、樹木の緑に覆われる地域の面積が10%増えるごとに地域の気温は0.3度程度低くなる傾向があるそうです。

○人の心をやわらげます

景観的な優しさとともに樹木から発散されるフィトンチッドは、疲労を和らげ、ストレスホルモンを減少させるなどリラックス効果があります。

○強風や騒音をやわらげ、火事の際には防火壁となります

幹や枝葉は風の力を分散して弱めたりクッションとなつて騒音を減衰します。防風機能は樹木の高さの30倍程度の範囲まで及ぶといわれています。また、サンゴジュ、ヤマモモなど防火性・耐火性に優れた樹種だと、火災の延焼が迫った時の防火壁として役立ちます。



ネスミモチの垣根

○生態系をつくります

生物はそれぞれが繋がりがあつて生きていて、人もその一部です。樹木があると鳥や昆虫などの生き物が集まってくる生活の場となり生物多様性保全の役割を果たします。色々な生き物が集まる場所は、生態系の健全な場所と言えます。人にとっても安全な場所とも言えます。ただ、かわい生き物もいれば、人に嫌われる生き物、迷惑となる生き物の生活もあります。他にも樹木には落ち葉に閉口するなど様々なデメリットもありますが、安全で潤いのある暮らしを守っていくために、生態系の一員として共生を考え、出来る範囲の取り組みを考えていくことが大切です。



公益社団法人 静岡県造園緑化協会会員

会員名	所在地	電話番号	会員名	所在地	電話番号
株愛樹園	東伊豆町	0557-23-0648	株小林土木緑化	静岡市駿河区	054-264-6499
株造園樹	東伊豆町	0557-23-1635	株落合造園	静岡市駿河区	054-285-4928
株伊豆急ハウジング	伊東市	0557-53-2166	株静岡グリーンサービス	焼津市	054-624-5593
株広野園	伊東市	0557-37-3028	加藤造園緑	焼津市	054-628-3235
株植園	伊東市	0557-45-0040	原田造園緑	焼津市	054-624-2610
藤原造園緑	熱海市	0557-81-4240	良知樹園緑	焼津市	054-624-1355
西村造園緑	熱海市	0557-82-7424	南富士昌造園	焼津市	054-624-4001
株武井造園	三島市	055-960-8139	南杉村造園	焼津市	054-624-0031
南伊豆植物園	伊豆の国市	0558-76-1564	南櫻園	焼津市	054-624-8941
大島造園土木株静岡営業所	裾野市	055-997-2775	株中緑化建設	焼津市	054-629-1610
株富士見園	長泉町	055-986-6567	南大石造園	藤枝市	054-643-7282
南正翠園	長泉町	055-986-3199	養樹園	藤枝市	054-641-0161
株大綱造園	御殿場市	0550-83-9767	南太陽造園	藤枝市	054-641-4076
株植正園	沼津市	055-921-0945	紅林造園	藤枝市	054-635-7256
南緑青苑	沼津市	055-931-0408	株東海フォレスト	島田市	0547-46-1551
株大志建設	沼津市	055-923-1128	南若本造園	吉田町	0548-32-2507
株翠石園	富士市	0545-71-2236	南松浦造園	吉田町	0548-32-8887
株富士植物園	富士市	0545-60-4033	株雄樹園	御前崎市	0537-86-2684
南一忠園	富士市	0545-35-0123	田旗造園建設株	掛川市	0537-22-5951
株大松園	富士市	0545-52-5220	株結核庭苑	掛川市	0537-24-5577
南常草園	富士市	0545-35-0163	株三宝園	掛川市	0537-24-4128
南翠光園	富士市	0545-36-2020	南小澤造園	掛川市	0537-22-9052
株緑宝園	富士市	0545-21-5083	南松月園	森町	0538-48-6431
株望月庭園	富士市	0545-21-5195	南山本造園	袋井市	0538-48-6592
南やまもと園芸	富士市	0545-38-1958	株片桐造園建設	袋井市	0538-48-7884
天野園芸株	富士市	0545-81-0655	株ハッ代造園	袋井市	0538-43-4355
株共立	富士市	0545-85-1213	トヨタ緑産株	袋井市	0538-44-0400
南小林造園	富士宮市	0544-24-4533	株益仁	磐田市	0538-35-5528
赤池造園株	富士宮市	0544-24-3568	株緑樹	磐田市	0538-34-3030
株佐野緑化	富士宮市	0544-27-2825	株浮月園	磐田市	0538-38-0529
株双葉グリーン	富士宮市	0544-26-3138	南永井造園	磐田市	0538-38-0509
株岳陽グリーン	静岡市清水区	054-385-5034	南稲垣造園	磐田市	0538-38-1901
南丸福造園土木	静岡市清水区	054-375-2115	南松島園	磐田市	0538-38-0790
源平造園建設株	静岡市清水区	054-366-5525	南大東園	磐田市	0538-34-4163
株小澤造園	静岡市清水区	054-353-3774	株東豊グリーンメンテナンス	磐田市	0538-32-0018
駿河緑地造成株	静岡市清水区	054-351-2555	南昭花園	磐田市	0538-55-3392
南森荘造園	静岡市清水区	054-345-3859	南東海ガーデン	磐田市	0538-32-5025
木下造園株	静岡市清水区	054-334-0757	株江岡種苗園	浜松市中区	053-471-1727
不二造園土木株	静岡市清水区	054-369-2515	株庭明	浜松市中区	053-453-3311
南東海造園	静岡市清水区	054-369-2119	株益樹	浜松市中区	053-455-3980
春長園緑化株	静岡市葵区	054-246-7512	みどり園株	浜松市中区	053-456-1165
株ひかり造園	静岡市葵区	054-253-6508	南太陽造園土木	浜松市中区	053-455-4007
株森造園	静岡市葵区	054-253-4659	株エンター	浜松市中区	053-435-8585
静岡製菓株	静岡市葵区	054-261-2094	株大瀬造園	浜松市東区	053-434-1907
南飯田庭園	静岡市葵区	054-245-0513	天龍造園建設株	浜松市東区	053-421-1180
株藤原造園	静岡市葵区	054-245-9870	赤庭産業株	浜松市東区	053-434-4332
株静岡緑地建設	静岡市駿河区	054-669-9113	大協造園緑化株	浜松市西区	053-592-4500
株市川造園	静岡市駿河区	054-259-1819	ナセイ緑地株	浜松市西区	053-485-4631
株理研グリーン	静岡市駿河区	054-283-5555	市川造園株	浜松市南区	053-449-4646
株西野造園	静岡市駿河区	054-283-3131	大村造園建設株	浜松市北区	053-437-1128
ソーア造園株	静岡市駿河区	054-282-7971	南青生植木	浜西市	053-579-0736

私たちは造園・緑化樹木の整備、育成技術の研鑽に努め、
公益法人として、様々な活動を行っています。緑のことお気軽にご相談ください。

- 造園・緑化相談など緑への理解を深め親しんでいたく活動
- 緑化樹木の整備育成に関する技術研鑽と技術指導支援活動
- 災害時の応急復興活動・東日本大震災では震災直後に大畑町での瓦礫処理活動を実施
- 高齢求職者就労のための技術講習支援活動や高校生、大学生のインターンシップ受け入れ
- 環境や自然、樹木に関する調査活動や静岡県景観整備機構として景観形成活動

公益社団法人静岡県造園緑化協会

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2丁目2番地
TEL 054-253-0586 URL <http://www.midorinotakara.org/>

平成26年1月6日発行
編集 啓発労働委員会
題字 泉松文男氏



公益社団法人 静岡県造園緑化協会は、この「ふじのくに 森の町内会」の紙を使うことにより、林地に捨てられる同伐材を資源として活用し、静岡県の豊かな森林づくりをサポートしています。